偏光レンズによる日常視力値

日本医歯薬専門学校　視能訓練士学科　７期生　５班
赤羽風杏・桂木未空・北澤舞華・山崎日那・渡辺杏優

【目的】

夜間近視に代表されるように環境により屈折が変化するが、日常生活においても環境の変化により差が生じるかの検証を行い、差が生じる場合最高視力と最良視力が一致するかの検証を行った。偏光レンズ装用時と非装用時にて視力値に差があるか検討する。

【対象と方法】

対象は、現在治療中の眼疾患のない３４例、１９歳から３２歳の男女、偏光レンズによる視力値の変化のみを対象とした。

方法は、両眼開放の状態で日常生活視力を遠見で測定し、次に東海光学の偏光レンズ６種類をそれぞれ装用し視力検査を行うことで最高視力の比較を行う。検査直後最良視力の検討のため装用感に対するアンケートを実施し、その結果を比較・検討した。

【結果】

・全体

≪視力が上がった割合≫

BR、MG：２９．４％　TR、RO、MV：23.5%　FR：14.7%

≪見えやすいと感じたレンズ≫

MG：44.1%　MV：41.2%　BR、FR：5.9%　TR：2.9%　RO：0%

・近視

≪視力が上がった割合≫

MG：42.9%　BR：38.1%　TR、MV：33.3%　RO：28.6%　FR：19%

≪見えやすいと感じたレンズ≫

MG：42.9%　MV:38.1%　BR、FR：9.5%　TR、RO：0%

・遠視

≪視力が上がった割合≫

BR、RO:15.4%　TR、MG、MV、FR:7.7%

≪見えやすいと感じたレンズ≫

MV：46.2%　MG:38.5%　BR、TR：7.7%

見えやすいと感じたレンズは、44.1%で MG であった。

視力が上がった割合はばらつきがなかったため、条件をさらに細かくし、近視と遠視の２つに分けて検査した結果、近視で視力が上がった割合は、42.9%で MG、遠視では、15.4%BR と RO であった。

【結論】　最高視力と最良視力では、使用する偏光レンズが異なることが示唆された。偏光レンズは、目に入ってくる光を遮断するため、偏光レンズを選択する際には、最高視力よりも最良視力の偏光レンズの選択をすることを推奨する。患者の状態により、最良視力の得られる偏光レンズが変化されることが予想される。今後は、対象年齢を問わずに屋外での検査も検討し、様々な患者で比較することで推奨するレンズの精度を高めることが期待される。

※最高視力・・・自覚的屈折検査において、１番視力の高い数値

※最良視力・・・自覚的による、１番見えやすい状態

【利益相反公表基準：該当】無

【倫理審査：承認】有【IC：取得】有